

## 今週のメニュー

## ■トピックス

◇日本は雪国なのか その2

## ■随想

◇2005年シリア旅行記 (6) 秘密警察

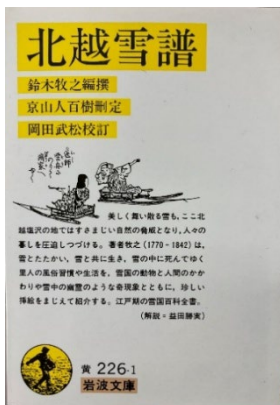
元一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

## ■トピックス

◇日本は雪国なのか その2

1. 大雪の連休 ([前号](#))
2. 日本の半分は豪雪地帯 ([前号](#))
3. 豪雪の歴史と最近の状況 ([前号](#))
4. [北越雪譜の世界](#)
5. [社会的インフラ強化への貢献](#)

## 4. 北越雪譜の世界



少し過去に遡って、江戸時代の状況を見てみたいと思います。明和七年(明和九年の江戸の大火の2年前ですね)に越後の国の塩沢(今日の新潟県南魚沼郡塩沢町)に生まれた鈴木牧之(ぼくし)という人の著した『北越雪譜』という書物があります。天保六年に初編、同十一年に二編が刊行されました。この本は、初編上中下三冊、二編春夏秋冬四冊の七冊からなるもので、稿本の刪作を山東京山(山東京伝\*の弟)に依頼し、挿画は牧之自身が描いたものを京山の子京水が書き直したものとされています。

鈴木牧之は、この『北越雪譜』で、雪に埋もれて暮らす自分たちの地域のことを天下に知らせ、理解を深めようとしたもので、人生の後半三十余年を苦心画策し、何度も書き改め、加え、晩年によく刊行を果たしたものです。岩波文庫の表紙には、「美しく舞い散る雪も、ここ北越塩沢の地ではすさまじい自然の脅威となり、人々の暮らしを圧迫しつづける。著者牧之(1770-1842)は、雪とたたかい、雪と共に生き、雪の中に死んでゆく里人の風俗習慣や生活を、・・・中略・・・珍しい挿絵をまじえて紹介する。江戸期の雪国百科全書。」と紹介されています。また、この本のなかで牧之は次のように書いています。

「暖国の雪一尺以下ならば山川村里立地(たちどころに)銀世界をなし、雪の飄々翻々たるを観て花に論へ玉に比べ、勝望美景を愛し、酒食音律の樂を添え、画に写し詞につらねて称翫(しょうがん)するは和漢古今の通例なれども、これ雪の浅き国の樂み也。我越後のごとく年毎に幾丈の雪を視ば何の樂き事かあらん。雪の為に力を尽

くし財を費し千辛万苦する事、下に説く所を視えおもひはかるべし。」

千辛万苦という言葉から、牧之の厳しいまなざしが向けられていることが伺えます。

「我国の雪は鷲毛（がまう）をなさず、降時はかならず粉碎（こまかき）をなす、風又これを助く。故に一昼夜に積所六七尺より一丈に至る時もあり、往古より今年にいたるまで此雪此国に降ざる事なし。されば暖国の人のごとく初雪を観て吟詠遊興のたのしみは夢にもしらず、今年も又此雪中を在る事かと雪を悲は辺境の寒国に生まれたる不幸といふべき。」

鈴木牧之は、積もった雪を掃うことを「雪堀といふ」と書いています。右図は、「堀除積雪之図」とあり、当時の雪堀を描いています。牧之は「小家の貧しきは堀夫をやとふべきも費あれば男女をいはず一家雪をほる。吾里にかぎらず雪ふかき処は皆然なり。此雪いくばくの力をつひやし、いくばくの錢を費し、終日ほりたる跡へその夜大雪降り、夜明てみれば元のごとし、かかる時は主人はさら也、下人も頭を低て嘆息をつくのみの也。」



岩波文庫版 P12

時代は変わっても日本の国土の半分が豪雪地帯であるということはず変わり、近年は道路も整備され、さまざまな大雪への対策などは施されてきているものの、屋根の雪下ろしや自宅の前の雪かきなどは人手に頼らざるをえない状況には古今変わらぬ苦労があるのではないのでしょうか。

## 5. 社会的インフラ強化への貢献

今年の豪雪のニュースを見て、自然の脅威のなかで日々培ってきた生活の基盤がいつもたやすく崩され、その復旧のために立ち向かっていくことの大変さを感じます。こういった災難は『北越雪譜』で語られた時代も含めて何度も繰り返されてきた歴史といえます。たしかに現代では、科学や技術の力で自然の脅威や災害への対策はかなり講じられてきていると思います。とくに戦災復興から高度経済成長を支えるため日本のインフラ整備や着実に進められてきました。しかしながら、先日の八潮市の道路の陥没などに見るように、建設後、50年以上経過したインフラの割合が加速度的に増加してきています。当時最新の技術で作られたものもそろそろ世代交代をしていかなければならない時期に差し掛かってきているのかもしれませんが。一方、先にみたように20年の間、雪が少なかったことで地域を支えている人も変わり、特に少子高齢化・過疎化という避けられない状況のなかでは、国や社会をあげて国土やそこに暮らす人々の生活を守ることに全力で立ち向かう必要があるのではないかと思います。当協会も塩ビという基礎素材であり、パイプや建材などを含め社会インフラを支えていく素材について、これからも社会に貢献していくことを目指して、その有用性や社会的意義をしっかりと発信していきたいと考えています。

\*山東京伝：江戸後期の黄表紙・読本等の作者、浮世絵師。北尾重政の門に入り、代表作には、黄表紙に『江戸生艶気樺焼』（1785）などがある。絵師としても彩色絵本『新美人合自筆鏡』（1784）

はその代表的な作品。その影響は十返舎一九、式亭三馬、為永春水らにも及んでいる。実弟に合巻作者山東京山がいる。

## ■ 随想

### ◇2005年シリア旅行記 (6) 秘密警察

元一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

元々軍事国家だったシリアですが内戦前は中東でも治安がいいことで知られていました。教育水準も高く、公立学校に通うのであれば学費は大学まで無料でした。いまでも学費の無料は続いているようですが多くの都市で戦闘により学校が破壊され通常の授業が行えないようです。

食料もほとんど輸入に頼る必要がないほど豊かな土壌を持っていましたが、戦場になったり、難民としてシリアから脱出したりする人が多くなり耕作放棄地が増え食料確保もままならない地域が増えているようです。

治安維持体制も崩れ、非戦闘地域でもかなり治安が悪くなっているようです。

治安が非常にいいシリア。  
治安維持組織も沢山あります。

シリア軍  
シリア軍警察  
普通の警察  
交通警察  
秘密警察  
宗教警察

街中で一番多く目にするのが  
交通警察官。

信号機が少ないシリア。交通整理をするだけでなくせっせと違反切符を切っています。



添付の写真は Hama で雇った外国人専用タクシーの運転手さん。  
一見、人のよさそうなおじさんですが、その正体は。。。  
まあ、ここはそういう国だと割り切って旅行しましょう。

怖いのは秘密警察。  
私服で、普通の人の中に潜入し、反政府的行動についての情報収集、旅行者を含む外国人の行動確認などを行っています。

軍事国家であるシリアでは一般国民が外国人と恒常的な連絡を取ることを非常に警戒しています。

もちろん、街で普通に話したり、その家に招かれたりということまで制限はしていませんがインターネット接続ではシリア政府が提供する専用の監視ソフトをインストールしなければいけないなど、一般国民が外国人と日常的に電子メールや郵便等のやり取りを

したり、ウェブサイトを見て国外の情報に接することに神経をとがらせています。

このこと国民にも浸透しており、基本的に名前は教えても外国人旅行者に住所は教えてくれません。

旅行中、仲良くなった人に手紙や写真を送るからと住所を聞いても答えてくれないばかりか、あまりしつこく聞くと迷惑そうな顔をします。

なぜか電子メールアドレスは比較的簡単に教えてくれます。

外国人旅行者でもシリア国内で政府を批判するような発言をしたりすると秘密警察に逮捕されることも多いようです。

私が泊まったホテルのフロントにも明らかにスタッフとは異なる秘密警察、或いはその関係者であろうと思われる女性がいつもいました。

シリアでは外国人の立ち入りを禁止している地域があります。

写真撮影も政府、軍関係の施設や空港、駅、制服を着た軍人・警察官などを写すことは出来ません。

また、現在\*でもイスラエルとは臨戦態勢にあるため、政府、軍、警察は当然のこととして、ダマスкас大学や総合病院、発電所、石油備蓄基地など重要施設の入口には警備員ではなく機関銃を持った軍の関係者が配置されています。

シリア国内の移動では長距離バスなどを外国人旅行者が利用する際はパスポートを提示し入国ビザとパスポート番号の登録をしないとチケットの購入は出来ません。

どういう基準かは教えてくれませんでした。一般のシリア国民もある一定以上の距離の国内移動には移動許可証のようなものが必要なようで長距離バスのチケットとセットで持っている人を多数見掛けました。

このようなことを除けばヨーロッパなどと同じ気分で快適に旅行が出来ます。

写真を撮るときに気を付ければいいだけです。

以前、訪れた時は宗教警察に気を付けなさいと何度も言われましたが、今回の旅行ではそのようなことは言われませんでした。

イスラム教地域を女性が半袖姿で歩いたり、男女が手を繋いで歩いたりすると宗教警察に逮捕されると聞かされていましたが街中では半袖姿の女性や手を繋いでいる若い男女が沢山いました。このような行為がこれだけ日常化すると宗教警察の取り締まり基準もそれに合わせざるを得なくなったのかもしれない。

40年以上前、アルジェリアの田舎に滞在していました。当時のアルジェリア、外国人などイスラム教徒以外はアルコールを飲むことは許されていましたが酔った状態で外出することは禁止されていました。

休みの日、ワインを飲みながら昼食を食べると酔いが完全に覚めるまでレストランの外に出してもらえませんでした。もし宗教警察に見つかりと逮捕、最悪むち打ちの刑でした。

現在\*の首相はアサド大統領。独立の父に続く二代目の大統領です。  
一応、総選挙はありますが事実上の世襲制です。  
実はアサド大統領、体育が大嫌い。  
軍事政権の大統領でありシリア軍の最高司令官である人が体育嫌いではシャレになりません。  
政治にもあまり関心がなくダマスカス大学医学部に進学。卒業後、肩書は軍医となりましたが入隊せずロンドンに留学し眼科専門医として研鑽を積んでいました。  
しかし、後継者とされていた長男が交通事故死。  
父親のアサド大統領の体調も思わしくなかったため次男である現在\*のアサド大統領が急遽帰国させられ、軍の士官学校へ形だけ入学。いきなり最高司令官にまで出世した人物でもあります。  
お父さん亡き後はお約束の大統領へ。  
でも、見るからに線が細く、気の弱そうな軍事政権の最高司令官・大統領。  
国民の人気もいまひとつ盛り上がり欠けています。

こんな文章がシリア国内で見つかったら、すぐ秘密警察が駆けつけてきて逮捕されるかもしれません。

\*現在=2005年

---2025年3月追記-----

シリア、アサド政権の崩壊とともに秘密警察（ムハバラート）も解体。逮捕、拘禁されていた人たちが解放され、これまで秘密警察が行っていた様々な活動が公になってきています。一番悲惨なことは解放された人たちの何倍もの人たちが秘密裏に殺されていたことでしょう。

秘密警察、当初は治安維持を目的として設立されたようですがいつ頃設立されたかの資料は見つけることができませんでした。  
秘密警察と名乗っていますが内部組織とされている「軍事情報部」「空軍情報部」は軍の直轄、「政治治安局」は大統領の直轄の組織でそれぞれ独立した指揮命令の元で活動を行っていたとされています。

シリア国民と外国人旅行者の関係を制限したり、外国人旅行者の国内での様々な活動を監視したりしていたのは「海外情報局」。  
国内の政治活動だけでなく宗教活動を監視していたのは「内務治安部」「政府治安局」。  
パレスチナ人や少数民族の動向を監視していたのは「民族治安局」などかなり細分、専門化された組織だったようです。

この業務に従事していた秘密警察官、かなりの人数だったはずですがアサド政権崩壊後は一斉にこれまでの身元を隠したとか。  
身元を隠すため転居する人も多く最近では理由もなく引っ越しをしてきた人を見ると元秘密警察官だったかもしれないと疑う人も多くなっているとのこと。



今回の旅行記を執筆した当時は宗教警察がそれほどの権力がある組織だとは知らなかったためシリアの人たちが何でこれほど恐れているのだろうと不思議でした。

---

(続く)

次回は、(7) タイムスリップ です。

⇒ [バックナンバー](#)

#### ■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)

※本メールマガジン上の文書・画像等の無断使用・転載を禁止します。

---



■ 東京都中央区新川 1-4-1

■ TEL 03-3297-5601    ■ FAX 03-3297-5783

■ URL <https://www.vec.gr.jp>    ■ E-MAIL [info@vec.gr.jp](mailto:info@vec.gr.jp)

---